

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
YIC京都ペット総合専門学校		平成25年3月25日		杉山 征人		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4044	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地	
学校法人京都中央学院		平成19年1月22日		井本 浩二		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士		
商業実務	商業実務専門課程	ペット総合科		平成26年 文部科学省告示第6号	-		
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなペット業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教え育てる。</p> <p>動物看護科においては、動物病院で必要とされる実践的かつ専門的な技術・知識だけでなく、人と動物の共生社会の実現のために正しい知識と高い倫理観を持つ人材を育成する。さらに、職業人としての使命感を持って、利他の精神で働くことに社会的意義を感じられる人間力を育成することにも注力し、将来動物看護業界の指導的立場やリーダーとなる人材の育成を目的とする。</p>						
認定年月日	平成27年2月25日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,980時間	690時間		1,290時間		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	161人	0人	8人	21人	29人		
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績: 優(100-90) 良(89-70) 可(69-60) 不可(59-0)		
長期休み	■学年始: 4月1日～4月10日 ■夏季: 7月25日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席率: 80%以上 成績: 60点以上(100点満点) 学費の完納		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。			課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等)ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、部活動、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) ペットショップ、美容サロン、動物病院 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業生数: 71人 ■就職希望者数: 69人 ■就職者数: 66人 ■就職率: 95.6% ■卒業者に占める就職者の割合: 93.0% ■その他 ・進学者数: 0人			主な学修成果(資格・検定等)※3	■自由記述欄 全国動物専門学校協会主催 全国トリマー選手権大会 ミドルクラス優良賞受賞		
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成29年4月1日時点において、在学者156名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者153名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 QU(Questionnaire Utilities)により、学生の学校生活での満足度と意欲、クラス集団の状態を把握し、学生の不適応感について、問題行動として現れる前に発見し対策を立てている。出席不足や授業についていけない学生には補講や再試験等を行う。心の問題に対する個人々人への対応は、CTI(バーソナリティ診断)を利用し、担任、キャリアカウンセラー、臨床心理士が協同し、開発的、予防的、治療的カウンセリングが行える体制としている。			■中退率 1.9%			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費¥よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・経済的支援制度(専願出願者で経済的事由(生活保護受給世帯等)により学費減免を希望する者。最大10名。初年度学費より20万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学者または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者n太子初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者)に対し、初年度学費より10万円を免除) ・特別就学支援(本校に入学する全ての者に対し、初年度学費を20万円免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ・前年度の給付実績者数: なし						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無						
当該学科のホームページURL	URL: http://www.yic-kyoto.ac.jp/pet/						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。
- ・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。
- ・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。
- ・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、課外のキャリア特別授業や職業人を招いての講話だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。
- ・斯界のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界との関連により学ぶことの意義と学習意欲の向上につなげる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
- ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
- ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
若松 久雄	社団法人 京都府獣医師会 副会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	①
新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
中村 達朗	株式会社 ペット・コム 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
杉山 征人	YIC京都ペット総合専門学校 校長		
細田 元一	YIC京都ペット総合専門学校 副校長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、11月)

(開催日時)

第1回 平成29年 5月24日 15:30～17:00

第2回 平成29年11月 9日 13:30～15:00

第1回 平成30年 5月23日 15:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記

学修成果:

- ・学生の修得度合いに関して、日々の確認が不十分であると感じる。学生は自分自身の技術を見つめなおす事が時間的にも難しい。学校側が日々の確認を確りと実施しないといけないのではないか。
→前提テスト、確認テストが実習でも必要であると感じている。確認項目を統一すれば教員の熟練度に依存しない確認が可能。現状、時間的問題が存在するが解決策を考える。
- ・常勤・非常勤の差無く、どの時期に何をしなければならぬのか教員間での密な打ち合わせが不足しているのではないか。月単位での確認が必要ではないか。
→ご意見は課題として確りと考える。
- ・学習意欲を高める為にも学生のうちに業界との接点を増やすと良いのでは。自信が勉強する事に対するイメージ付けが出来るのではないか。
→働くとは何か、キャリアとは何かという事が課題となる。資格取得後にどの様に働き続けるかをイメージさせる指導が必要と感じている。
- ・教員が自身の技術を高めようと努力している学校は自ずと学生の質も向上する。教員自身が自ら取り組む環境をつくる事が重要ではないか。

→人材育成は非常に重要であると感じている。各種セミナーや技術研修会等に教員が参加出来る様に情報発信等を実施している。

教育活動:

- ・ペットの高齢化が進む中、学校としてシニア犬、病犬の扱いに関する教育を取り入れてはどうか。
→選択科目としてペットシッター学を取り入れているが、1科目だけではなく本格的に取り入れる事も検討する。
- ・動物を扱う上でのトラブル事例に関して、教育課程に入れてみてはどうか。
→教員に事例を是非教えて欲しい。事例集の様な教科書を学校で作成する予定。学校の課題として取り組む。
- ・就職先に関して、様々な就職先を選択できる仕組みが必要ではないか。希望する人材と企業側の想いのマッチングが重要である。
→学校側から働きかけて様々な就職先を開拓する。実際の現場の状況を在学中に確りと伝える必要がある。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、適宜企業側から最新の技術教育に対する学校への講師派遣、あるいは企業における技術教育等を行う。連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、各協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)等については連携の協定書締結時に確認する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

校内の授業・実習などで修得した知識や技術等を企業及び各種団体などの各施設や現場で利活用して実践力を養成しつつ、高い評価が得られる職業社会人として必要なスキルや多様な能力が求められる実態を学生本人が把握し、そのニーズを見極め自身の醸造と今後の学習において自己課題を設定する機会としている。

実習・演習等においては、各科目のシラバスにより授業を進め、授業終了後には実施した内容をクラウド上の授業報告書に記入し、他の教員との間で情報共有を行う。

各定期試験において、指導者より出題される課題(ペーパー試験、実技試験等)を実施し評価(4段階)していただく。この評価を基に、進級判定会議・卒業判定会議にて最終単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
水生生物Ⅰ	水性動物の基本を理解させ、ペットショップの売り場における実践力を身につけさせる。 アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を学ぶ。 ・熱帯魚の種類を知る ・水生生物特有の病気について学ぶ ・日本原産の観賞魚と海外産の観賞魚の歴史について学ぶ	Fish・House Reptiles
水生生物Ⅱ	アクアリウムの実践に向けての知識を覚える。 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる計画を立てる。 2年次に1人に1つの水槽(基本60cm水槽)を管理し、レイアウト全ての作品を作り上げるための、水草の定着方法を学び、流木・アクセサリを使用してのアレンジができるようになる。	Fish・House Reptiles
水生生物Ⅲ	アクアリウムの管理・実践。 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる。 1人に1つの水槽(基本60cm水槽)を管理し、レイアウト全ての作品を作り上げる。 水草の定着から、流木・アクセサリを使用してのアレンジができる。	Fish・House Reptiles
公衆衛生	動物とよりよい関係を築く為に必要な、感染症や消毒方法などの知識を覚える。 衛生上の危害や発生を防止する分野の基礎を覚える。 愛玩動物飼養管理士の合格レベルの知識を覚える。	犬の家庭教師 みつの塾

動物関連法規	動物業界、動物医療の関連法規を覚える。 仕事をする上での法律を覚える。愛玩動物飼養管理士の合格レベルの知識を覚える。 動物看護師試験の合格レベルの知識を覚える。	犬の家庭教師 みつの塾
愛玩動物飼養管理学	愛玩動物飼養管理士試験【2級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士2級の合格レベル、知識を覚え合格する。	犬の家庭教師 みつの塾
動物行動学Ⅰ	犬・猫種による行動の異なりから、成長段階にみられる行動を覚える。 それぞれの対応を学び、固体における基本的な行動の意義・機序を理解し飼い主指導に活かす。 行動をそれぞれの分類に分けて考えることで、問題行動についてのしつけを理解し、適正飼養と人と動物の共存に寄与することができる。	犬の家庭教師 みつの塾
動物行動学Ⅱ	人の生活の中で、最も近い位置で暮らしている犬・猫の様々な情報を読み取り問題となる行動を観察・記録・分析を実践することで、解決方法を導く。 生体・生理的状態・環境刺激などの要因を分析したうえで、飼い主指導に活かす。 1年次の行動生態や行動分類を活用し、2年次は応用とする。 それぞれの家庭で理想的な育成は異なるが、双方の幸せと現代の人間社会で暮らす動物達の置かれている実情を知ることにより、何が問題で何が問題ではないのかを知り、育成方法、問題行動を考える。 動物へのトレーニングだけでなく、飼い主教育までしっかりと考えて発言でき、 また、高齢動物での行動変化(問題行動)を把握し、答えを導き出せるスタッフを目指す。	犬の家庭教師 みつの塾
家庭犬訓練Ⅰ	犬とのふれ合いから、基本となる訓練を学ぶ。 犬のオーナーさんの現状を学び何を望んでおられるか、学生に理解させる。 基本的な犬との接し方とスポーツとしての犬の訓練を実践する。	バンブドッグスクール

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規定に定められていることを明記

変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を教養育てるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。

「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはYICグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校内外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。

美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JKC2017年度 JKCTリマー自主研修会」(連携企業等:JKC大阪ブロック)

期間:6月20日(火) 対象:JKCTリマー

内容:「ビションフリーゼの手入れ方法 トリミング方法」

- ① 日常の手入れについて
- ② ショードッグとペットドックのトリミングの相違

研修名「JKC2017年度 トリマー義務研修会」(連携企業等:JKC大阪ブロック)

期間:9月5日(火) 対象:JKCTリマー

内容:「スキャンジナビアン クリップについて」

- ① スキャンジナビアン クリップとは
- ② セカンドパピー クリップとの相違
- ③ 形作りを行う上での注意点

研修名「JKC2017年度 審査員義務研修会」(連携企業等:JKC大阪ブロック)

期間:10月16日(月) 対象:JKC審査員

内容:「秋田犬について」

- ① 秋田犬のルーツ
- ② 秋田犬の審査方法
- ③ スタンダードについて

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員研修」(連携企業等:京都専修学校各種学校協会)

期間:10月14日(土)、21日(土) 対象:新任教員

内容:

- ・専修学校教育のあり方と授業実践
- ・専修学校と制度
- ・総合自由科目

研修名「QU実践講座」(連携企業等:)

期間:12月25日(月) 対象:教員

内容:QU結果の見方

- ・QUの活用方法
- ・注意したい(気にかけて)学生の対応法

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JKC2018年度 審査員義務研修会」(連携企業等:JKC大阪ブロック)

期間:8月19日(日) 対象:JKC審査員

内容:① テリア犬種について(全般) ② 審査上の重要点
DOGSHOWにてテリア犬種をジャッジング 研修内容

- ・テリア犬種について
- ・審査上の重要点
- ・質疑応答

研修名「JKC2018年度 トリマー自主研修会」(連携企業等:JKC大阪ブロック)

期間:8月21日(火) 対象:JKCTリマー

内容:テーマ「ウエストハイランドホワイトテリアのトリミング」

- ※ウエストハイランドホワイトテリアのモデル犬使用にての実践講習
- ・ブラッキングの方法、目的、使用用具、注意点
- ・各部位によるブラッキング方法、実演
- ・仕上げ(細部)の形作りについて
- ・パウダリングについて
- ・ウエスティーとケアンズの形作りの相違点

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「京都学校教育相談研究大会」(連携企業等:京都府立学校教育相談研究会他)

期間:8月9日(木) 対象:教職員

内容:

- ・講演:今の自分と向き合う ～こころと身体のリフレッシュ～(講師:妙心寺春光院副住職・マインドフルネス講師 川上氏)
- 分科会
- ・講演:フォーカシング ～こころの内面に優しく触れる方法を学校で活かす～(講師:近畿大学総合社会学部教授 小泉氏)
- ・講演:不登校の子供の成長につなげよう(講師:天理大学人間学部教授 千原氏)
不登校になる原因や、その後のケアはどう行っていくか。支援のポイントや不登校を理解する等、現場で役立つ情報を得る。
- ・講演:家族療法 ～がっこうのできるオープンダイアログ入門～ ふるか家族カウンセリング研究所 所長古川氏)

研修名「教える技術 学生の心を掴む授業展開のコツ」(連携企業等:全国専門学校教育研究会)

期間:8月21日(火)-22日(水) 対象:教員

内容:

- ・心を動かし行動につなげる教え方
- ・気づきの実習を体験しよう
- ・対話で心を重ねよう
- ・対話の場づくりをケースで体験する
- ・自身で実習(ゲーム)をつくってみる

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3) 教育活動	2 教育の内容
(4) 学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	3 教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	5 学生支援
(8) 財務	8 財務
(9) 法令等の遵守	7 管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・「非常勤講師」と「常勤教員」間の人材育成に対する意識乖離が気になる。

→非常勤講師への指導徹底は今後の課題である。また、教え方に関しては特別講師を招き、教員研修を実施する事により指導方法の標準化を試みている。今年度の取り組みとして教員研修を意欲的に実施し、常勤・非常勤に関わりない教授方針の標準化を目指している。

・企業側から「京阪神の学校の中ではYICの学生を是非とも欲しい」と言われる様な卒業生を排出する事が理想ではないか。

→「企業連携→就職→1ヵ月で離職」といった悪循環を繰り返さない為の企業との連携を考えた教育課程を作成し、業界関係者が在学中から学生を予約したくなる様な卒業生を排出する事が理想であると考えている。

これに対して企業が欲しがる様な人材を育てる為にも、学校が2年間教育し、企業へと送り出すだけでなく、学生を中心として企業と学校が共に学生を育てるスタンスが必要ではないかと考えている。

高校入学の段階から高校での3年間、専門学校での2年間、卒業後の10年間、合計15年間を企業、専門学校がオーバーラップし、学生を育てあげるスタンスが必要ではないかと考える。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
若松 久雄	社団法人 京都府獣医師会 副会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	学会
新谷 嘉成	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会 会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
中村 達朗	株式会社ペット・コム 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/>

公表時期: 2018年 7月10日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校の評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット総合科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			犬学・猫学	犬と猫の歴史・生態・習性や人との関係を覚える。	1前	30	1	○			○		○		
○			犬種・猫種学Ⅰ	犬・猫種の各グループ別、原産国、歴史、サイズなどを覚える。(JKC登録数上位、人気犬種を対象)	1後	30	1	○			○		○		
○			小動物概論Ⅰ	犬・猫以外での動物の生態を学ぶことにより、エキゾチックアニマルと呼ばれる分野の知識を覚える。	1後	30	1	○			○			○	
○			水生生物Ⅰ	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を覚える。	1前	30	1	○			○			○	○
○			解剖学	犬・猫を中心とした動物の体の仕組みを勉強し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生態毎の違いを覚える。 犬・猫を中心とした動物の体の構造、骨格筋系、呼吸器系・消化器系・循環器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生体毎の違いを覚える。	1前	30	1	○			○		○		
○			公衆衛生	動物とよりよい関係を築く為に必要な、感染症や消毒方法などの知識を覚える。	1後	30	1	○			○			○	○
○			動物関連法規	動物業界、動物医療の関連法規を覚える。	1前	30	1	○			○			○	○
○			グルーミング基礎学	グルーミングの必要性和目的、効果。グルーミングを行う上での犬体の構造、獣医学、衛生と消毒、各種専門用語を覚える。	1通	60	2	○			○		○		
○			犬種別トリミング学Ⅰ	犬種別のグルーミング方法。トリミングの基礎であるベーシックを学習。短毛犬種、中型犬種、大型犬種など、犬種別のグルーミングを覚える。	1通	30	1	○			○		○		
○			健康管理学	犬・猫の病気について、各コース共通で必要な知識を覚える。	2後	30	1	○			○		○		
○			基礎看護学	動物関係の仕事に就く上で犬・猫の必要最低限の看護知識を覚える。	1後	30	1	○			○		○		
○			愛玩動物飼養管理学	愛玩動物飼養管理士試験【2級】に関連する内容を覚える。	1通	60	2	○			○			○	○
○			動物行動学Ⅰ	犬・猫種による行動の異なりから、成長段階にみられる行動を覚える。	1後	30	1	○			○			○	○

○		小動物飼育学	生態や習性の違う動物たちを飼育する時に気を付けないといけないことを学ぶ。 また、その動物についてを理解した上で、飼育動物の生活の質(QOL)の向上を考えることができるようになる。	1	30	1	○			○		○		
○		家庭犬訓練Ⅰ	犬とのふれ合いから、基本となる訓練方法を覚える。	1前	30	1	○			○			○	○
○		パピーケアⅠ	生後1か月から1歳になるまでのしつけ・栄養・健康・飼い主との家族関係を覚え、アドバイスができる。	2前	30	1	○			○			○	
○		グルーミング実習Ⅰ	基本的なグルーミング技術を覚える。	1通	270	9				○	○		○	
○		キャリアデザインⅠ	就職活動に実践で活用できる内容を覚える。	1	60	2	○			○			○	
○		実務研修Ⅰ	実際のペットショップ・動物病院に勤務を体験(研修)し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。	2前	30	1				○			○	○
○		ビジネス・マナー	接客対応の基礎『心づかい』『言葉づかい』などの実務知識を覚える。	1前	30	1	○			○			○	
○		総合学習Ⅰ	普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。	1通	60	2				○			○	○
○		ビジネス電話	ビジネスシーンでの電話のかけ方の専門性の知識を学び、ビジネス電話検定試験の資格取得を目指す。	1後	30	1	○	△		○			○	
○		美容Ⅰ	基本的なグルーミング・ベーシック・カットング技術を覚える	1	90	3				○	○		○	
○		美容Ⅱ	各現場で通用するトリミング技術を覚える。	2通	540	18				○	○		○	
○		犬種別トリミング学Ⅱ	専門的な犬種別トリミング方法、クリップスタイルを覚える。	1	30	1	○			○			○	
○		トリマー演習	JKCトリマーライセンスC級取得のための知識、オリジナルカットのデザインの知識を身につける。	2通	60	2	○			○			○	
○		犬種別トリミング学Ⅲ	専門的な犬種別トリミング方法、JKCライセンス取得クリップスタイルを覚える。	2通	60	2	○			○			○	
○		訓練Ⅰ	訓練とはどんなことか、どのように行うのかを覚える	2通	120	4				○	○			○
○		訓練Ⅱ	スポーツを通して、犬とのコミュニケーション力向上を行う	2通	120	4				○	○			○
○		家庭犬訓練Ⅱ	犬を知ること、つくれること(家庭犬訓練の学科と実技内容を知る)	1後	60	2				○	○			○
○		家庭犬訓練Ⅲ	犬を知ること、つくれること(家庭犬訓練の学科と実技内容を知る)	2通	120	4				○	○			○

		○	ボランティア活動	各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をとおして、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更(施設との調整などにより)が行われることもある。	1 or 2	120	4						○		○		○	
合計					56科目		3,840単位時間(128単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目35単位(960時間)および選択必須科目及び選択科目合わせて31単位(1,020時間)以上 計67単位(2,010時間)以上の履修 (留意事項)	1 学年の学期区分		2期
	1 学期の授業期間		15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。